

【佳作】

「自分たちには何ができるのか」

上富良野町立上富良野中学校

2年 能勢 茉央

北方領土とは、歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島の四つの島の事です。

以前私は、その北方領土、四つの島の一つの歯舞群島に住んでいた高塚正勝さんの話を聞く機会がありました。その中で私が一番必要だなと思ったことは「若者の後継者」です。なぜなら、北方領土に住んでいた元島民の方も、もう高齢で北方領土に住んでいたけど住んでいた時期が0歳から二歳くらいだとあまり、記憶にないと思うからです。そのため、今のうちに記憶が残っている人から話を聞き、若い人が引き継いでいくべきです。そしてこの問題が解決に近づくかもしれないし、忘れられることも少なくなると思うからです。実際元島民の高塚正勝さんも元気なうちに色々な小・中学校に行き自分の体験談を言いに行ったり、返還運動をしているそうです。

自分たちにできることはないのでしょうか。私は小さなことでもたくさんあると思います。例えば、人前に立って話すことが苦手だと思っている人もいるかもしれません。そのような人は、文章にまとめて皆に配る方法が良いと思います。その他にも、今はインターネットによる情報社会です。ですのでインターネットで発信したり、北方領土の自然、動物などの写真をのせたりする方法もあると思います。

ですが、このようなことをしていても解決できないのが現状です。

なぜ、この問題は解決することができないのでしょうか。その原因は日本とロシアのどちらにもあると思います。なぜなら日本は日本の最北端がロシアの領域になってしまうと、日本の排他的経済水域がせまくなり、漁業にたくさんの影響が出てしまいます。なので絶対にロシアの領域にするわけにはいきません。

一方ロシアは、千島列島に国後島と択捉島が入っているなどと主張しています。

ですので日本もロシアも北方領土を自分の国の領地にしたい理由があると思うのでなかなか解決しないのだと思います。

一つの解決策としては、半分ずつ使えば良いと思います。また、元島民の人ですら帰りたいときに帰れていないと思うので、ロシアと日本が一緒に仲良くして、せめて元島民の人だけでも帰りたいときに故郷に帰れる環境を作れば良いと思いました。そうすることで、色々な国の文化を知ることもし、さまざまな人たちとふれ合うことだってできると思います。

最後には私は、この北方領土の問題の一番の解決策は、元島民の願いでもある一日も早い北方領土返還を若者に伝えて、国民皆にこの問題を広めていくことだと思いました。そして北方領土問題が解決し、元島民の方の願いを叶えたいと思いました。これからも、北方領土についてのニュースなどに興味を持ち続けたいと思います。